

新 鉄道唱歌 山手線（外回り）篇

- 1 警笛一声（いっせい）東京を 早わが電車は離れたり
黄緑電車が山の手を ぐるりと一周走ります
- 2 そごう・日劇なくなって フランク・永井も忘れられ
人の流れは耐えぬけど 何がシンボル有楽町
- 3 帝国ホテルを右に見て 行けば新橋ステーション
鉄道開通記念の地 昔はここから汽車の旅
- 4 東京タワーが見えました 走れば間もなく浜松町
海の入口その昔 空の旅への入口に
- 5 新幹線を横に見て 少し見上げるモノレール
田町の駅まであとわずか 三田と芝浦つなぐ駅



- 6 田町を出れば品川の 車庫の真ん中走り抜け
新駅高輪ゲートウェイ 駅の周りは何もなし
- 7 新幹線も停まる駅 品川駅はにぎやかに
東海道の宿場町 ビルが建ちすぎ海見えず
- 8 右に曲がって御殿山 新幹線ともさようなら
大崎今ではすごい駅 東京・神奈川結ぶ駅
- 9 田圃が広がる五反田は 新興企業の街になる
江戸の昔を振り返り 過ぎにし時を考える
- 10 昔は郊外景勝地 目黒は今でも人気者
さんまと桜で人が来て ごみの始末が一仕事

- 11 埼京線ができてから 大きく変わった恵比寿駅
電車の行先よく見れば 栃木に群馬に神奈川県
- 12 東急・京王・地下鉄が 右や左の渋谷駅
複雑怪奇な駅の中 乗換えるのに一苦労
- 13 明治神宮西に見て 初詣では大にぎわい
原宿駅を使う人 若者・皇族・サラリーマン
- 14 右から寄せ来る中央線 黄色い電車が側に来て
並んで停まるは代々木駅 次の新宿すぐそこに
- 15 窓から見えるビルの群れ ホームに入れば人の群れ
ここは新宿広い駅 地上に地下に西・東



- 16 中央線を西に分け 北にまっすぐ山手線
新大久保は面白い 海外旅行に来たような
- 17 昔はお馬の稽古場で 今は学生達の街
おじさん達も集まって 高田馬場は元気です
- 18 目白で下りれば東には 学習院が広がって
静かな雰囲気漂わせ 学びの街と感じます
- 19 東が西武で西東武 気をつけないと間違える
サンシャインなどもう忘れ いつも賑わう池袋
- 20 荒川線は乗換えと 言われて下りれば大塚は
都電に乗換えられる駅 暮らしの足は街の友

- 21 何やらざわめく電車内 次は巢鴨だ降りる駅
とげぬき地蔵はどこかしら ばあさんウロウロ駅の中
- 22 北は古河庭園で 南に行けば六義園
駒込駅は橋の下 駅から楽しい散歩道
- 23 またまた右に大曲り 電車の基地の南側
線路の広がり美しい 田端は線路の集結地
- 24 道灌山のすぐ下に 西日暮里の駅できた
山には遺跡もさまざまに 弥生や縄文現れて
- 25 日暮里駅はにぎやかに 舎人ライナー京成線
外国人に日本人 谷根千・東京スカイツリー



- 26 鶯谷とは粋な名と 見れば駅前ラブホテル
昔の地名はどこへやら 根岸の里が懐かしや
- 27 北の国から来る汽車は いつも故郷（ふるさと）匂った
上野は今日も人の群れ 北への旅の出入口
- 28 昔は闇市アメ横は 今では立派な観光地
外国人が降りる駅 国際都市の御徒町
- 29 電気の街だと思ったら 随分変わった秋葉原
立体交差の駅だから 気をつけないと迷います
- 30 神田川を渡ったら 中央線が寄ってきて
神田の駅に入ります 新幹線もすぐそばを

- 31 神田を出ればもうわずか ビルの林が立ち並び
70分の旅終えて 東京駅にゴールイン



<あとがき>

明治5年（1872年）に新橋・横浜間が開業したことで始まった我が国の鉄道。

西へ向かう鉄道の旅を七五調の詩にしたのが大和田建樹で、多梅稚（おうのうめわか）が作曲して世に出た。「汽笛一声新橋を・・・」で始まる「鉄道唱歌」は、長く多くの人に親しまれてきた。

昭和の時代に活躍した落語家四代目柳亭痴楽は、自作の落語の中で「恋の山手線」と名付けた「山手線を内回りで一周する各駅名を順に折り込んだ狂歌」を披露した。

大和田建樹の時代には新幹線も飛行機も存在しなかったし、柳亭痴楽の時代には西日暮里も高輪ゲートウェイもなかった。

先人の秀作を参考に、無礼を顧みることなく、新しい時代にあった「新鉄道唱歌 山手線外回り篇」を作って見た。

以上

◆参考情報：「鉄道唱歌を読んでみる」 <http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/tetsudos.pdf>